

高瀬御蔵・御茶屋跡

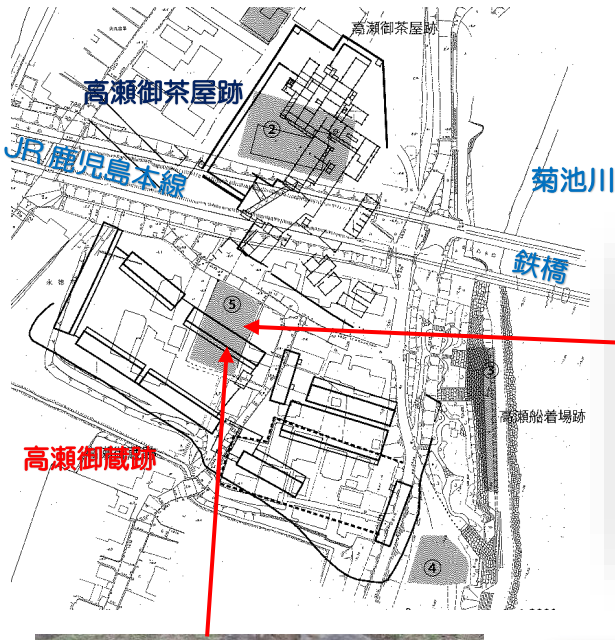
高瀬御蔵跡（国指定史跡） ～ ここから天下の台所・大坂へ ～

高瀬御蔵跡は、玉名市永徳寺の菊池川沿いに造営された藩営の米積出港である高瀬船着場に付属する米蔵の跡地です。江戸時代、菊池川流域から平田舟により運ばれた米は、高瀬船着場で一度陸上げされ、高瀬御蔵に収められました。その後、検品等を経て米相場のあった大坂へ大型船により運ばれました。肥後から大坂へ運ばれた米は、文政年間で年40万俵とされ、その半数は高瀬からのものでした。絵図や文書からは、10棟の米蔵があったと考えられ、その収容量は25万俵程と想定されています。現在は、高瀬船着場跡の西側にその内の1棟と考えられる蔵の礎石が一部残存しています。

※江戸時代は「大坂」と表記されていました。



高瀬船着場・御蔵の模型（玉名市立歴史博物館）



高瀬御蔵跡（市指定史跡）



指定地に残存する礎石



焼土層

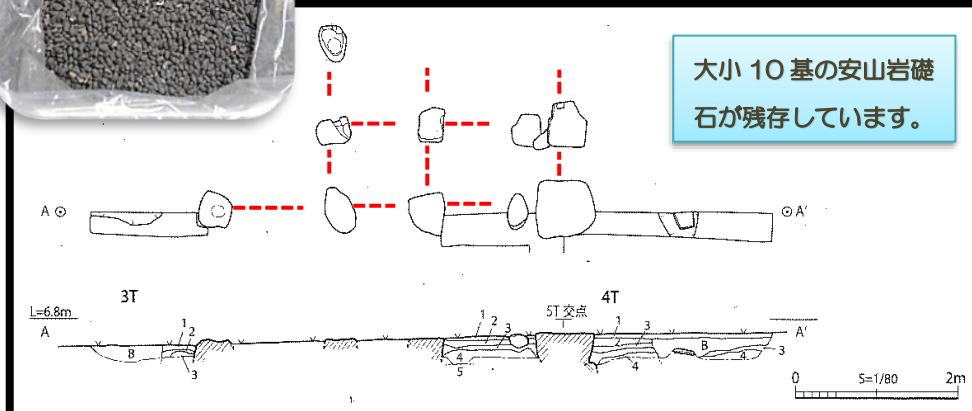


炭化米

焼けた瓦



御蔵は、明治10年の西南戦争で焼失しますが、当時、備蓄米が約6700俵あったとされており、実際に炭化米が出土しています。



大小10基の安山岩礎石が残存しています。

礎石付近から出土した焼けた瓦と炭化米

指定地に残存する礎石（平成26年度確認調査地）

高瀬御茶屋跡

～ 熊本藩主の宿泊休憩施設 ～

熊本藩の施設で、藩主による巡検時の休憩や宿泊などに利用されました。江戸中期の絵図が残存していますが、塀に囲まれ、17部屋ほどがあったようです。

これらは明治10年の西南戦争で焼失してしまい、跡地には井戸のみが残っています。また、高瀬御茶屋のものと考えられる九曜文の鬼瓦が伝えられています。



絵図をもとに復元された高瀬御茶屋跡の模型（玉名市立歴史博物館）



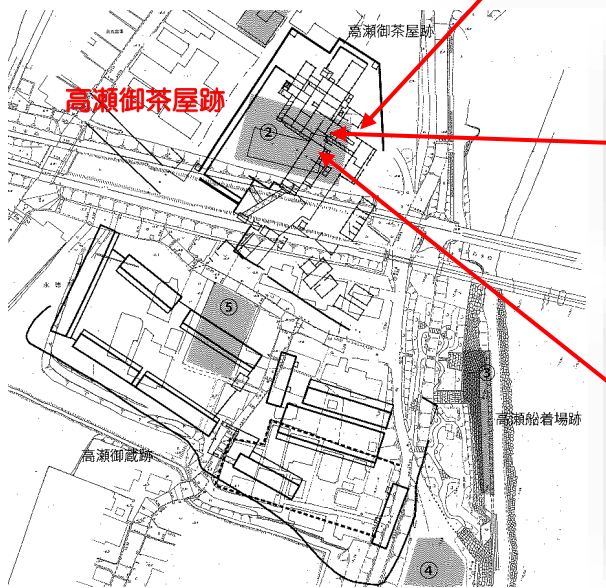
出土した江戸時代の湯のみ



高瀬御茶屋跡に残る井戸



伝・高瀬御茶屋跡の鬼瓦（九曜文）



丸瓦を転用した樋管（排水管）



検出された石列遺構



平成17年度に実施した倉庫建設に伴う確認調査では、井戸の付近から、丸瓦を連結させた樋管（排水管）が検出されました。これは、井戸で使用した余り水を外部に排水するための遺構と考えられます。また、自然石を列状に配した遺構が4か所で検出されました。これらは、構造や絵図から建物外周の縁石や雨落石と考えられますが、今後も検証が必要です。



西南戦争で焼けた瓦



これらの遺構は、高瀬御茶屋の遺構と明確に判断できたわけではないんじゃない。絵図や模型もあくまで江戸中期の様子であり、その後の増改築もあったとみられる。遺構の時期などを含めた検討はまだまだ必要じゃない！

当地は西南戦争後に整地され、西側に焼けた瓦が多量に埋められていました。その後、明治24年に鉄道を通すための大規模工事が実施され、遺構の大部分は破壊された可能性があります。